

聖書

聖書は、創造者なる神の「知恵、知識、真理の宝庫」

「直ぐな心で (ヨシエル)」、聖書に向かう者は多くの宝を見つけ、何よりも神に出会う

詩篇 119 : 7、エペソ人 6 : 5 「真心から」、マタイ 13 : 44-46

しかし、深く知ること「知識」をどれほど積んでも、信じ委ねる「信仰」には至らない

- ② ダイナミックな多角的、立体構造：
神の視点、人類史に先立って配備された摂理
- ③ 古代ヘブル (イスラエル) 史を通して記された正確な人間史：
過去 (史実) を学び、現在を見分け、未来を見通す洞察力習得のテキスト

使徒パウロの宣教 その10

『テサロニケ人への手紙第一』 3-4章

3章

☆テーマ：キリストの再臨は信徒に「聖め」を奨励

☆福音を受け入れた人たちは、パウロの「喜びの冠」

→ 2 : 19

五つの冠

1. 義の冠

→ テモテ第二 4 : 8

2. 栄光の冠

→ ペテロ第一 5 : 2-4

3. 生命の冠

→ 黙示録 2 : 10

4. 朽ちない冠

→ コリント人第一 9 : 25-27

5. 喜びの冠

→ テサロニケ人第一 2 : 19-20

☆「冠」は「その日、主が姿を顕されるとき」、与えられる祝いの栄冠

- : 1 「そこで、私たちはもはやがまんでできなくなり、私たちだけがアテネにとどまる…」：
 - * パウロは信徒には「母」であり「父」であり「兄弟」であった
 - * パウロ、彼らのところに戻ることができないことに我慢できなかった
- : 2 「私たちの兄弟であり、キリストの福音において神の同労者…テモテ…」 (下線付加) :
 - * 執事、元来は「給仕」の意
 - * テモテは「委任」され、テサロニケへ遣わされた
- : 3 「…私たちはこのような苦難に会うように定められているのです」：
 - * 私たちは重要なことを、困難を通して初めて学ぶ
 - * 「教訓が無駄にならないように」、祈る必要
 - * 苦しみは定められている
 - * キリストを信じる者は、艱難を通して練られ、信仰が強められ、再臨の主を迎えられる
- : 4 「あなたがたのところに行ったとき、私たちは苦難に会うようになる…」 (下線付加) :
 - * この世で、信徒はさまざまな艱難に遭う
 - 主の再臨直前には大艱難が来る！
 - * 苦難は、私たちの信仰の純粹さをテストするために必要

聖書

- : 8 「あなたがたが主にあって堅く立っていてくれるなら、私たちは…生きがいがあります」 :
- * 「あなたがたは信仰に堅く立っているので、今あなたがたは、本当に生きている」の意
- : 10 「私たちは、あなたがたの顔を見たい…昼も夜も熱心に祈っています」 (下線付加) :
- * 他の信徒たちの霊の戦いのための祈りの必要
 - 「信仰の不足を補いたい」 :
 - * 「完全にする」の意、完全に武具をつけ、備えさせる
 - * パウロ、彼らの救いを疑っているのではない
- : 11 「…私たちの父なる神であり、また私たちの主イエスである方ご自身…」 (下線付加)、
「どうか、私たちの神と父ご自身と私たちの主イエスが、道を開き、私たちをあなたがたの
ところに行かせてくださいますように」 (NIV、下線付加) :
- * パウロが、どのように父と子に関連づけているかに留意
 - * 完全な神性が、御子に帰せられている
- : 12 「…あなたがたの互いの間の愛を、またすべての人に対する愛を増させ…」 :
- * 「愛の労苦」は他の人の幸せを求める働き
- : 13 「…私たちの主イエスがご自分のすべての聖徒とともに再び来られる…」 (下線付加) :
- * キリストは、すでに死んで再臨の日を待ちわびているパラダイスの信徒たちを連れて天から来られる
 - * パウロ、主の再臨のとき、会衆が明らかに地上にいるものとして、語っている
 - 「聖く、責められるところのない」 (下線付加) :
 - * 神の御前に立つ聖さにおいて、責められるところがない
 - * 再臨の主に会うために、キリスト者に備えられる基準は至高

主の再臨に備えて

☆ 今日欠乏していること

1. 真剣な祈りの人生
2. 神の言葉の学び
3. 多くの魂の勝ち取り

主の再臨を描写する三つのギリシャ語用語

(1) 「パルージア、παρουσία」

☆ 主のご臨在

☆ 待たれていた者が「到着した」ときに用いられた

- ① 外国の王が侵略しようとした国の国境に、軍隊を率いて「到着した」とき
- ② 自国の王が一都市を訪問するために、延臣とともに「到着した」とき

(2) 「エピファニア、ἐπιφάνεια」

☆ 主の顕れ

☆ 「出現」に人々が突然気づくといった情景

(3) 「アポカリュプシス、ἀποκάλυψις」

☆ 啓示 (隠されていたことが明らかにされる)

☆ 「正体を現わす」とき、用いられる

☆ 上記 (1) ~ (3)、三つの言葉は同じ出来事の違った局面を示すために、互いに置き換えて用いられる

☆ これら三語に共通の動詞は「来る」

— キリストは来られる。征服者たる王として、ご自分の民を救うために—

☆ この世が最後に見たキリストは十字架に掛けられた主

来るべき日には、全世界の人々が王冠をいただいたキリストを見る

→ ピリピ人2: 10-11

聖書

4章

(1) 4:1-12

: 1 「…どのように歩んで神を喜ばすべきかを私たちから学んだように…」 (下線付加) :

- * 実践面に言及
- * 成長も含まれる

: 2 「私たちが、主イエスによって、どんな命令をあなたがたに授けたかを…」 (下線付加) :

- * パウロが与えたキリスト者の行動の水準は、十戒よりもはるかに高い水準

十戒

☆ すべての人が「罪人」であり、「救い主」が必要であることを示すために与えられた

☆ 人、—イスラエルの民— は『十戒』を守ることはできなかった

☆ 罪人の救いに何の役割りも演じない、キリスト者の行動の水準でもない

十戒より高い水準の命令をどのようにして守るのか？

☆ パウロ、信徒たちに守るべき幾つかの命令を与えた

☆ 信徒はキリストに従順であるべき

☆ キリストの掟への信徒の従順は愛の関係、愛によって動機づけられるべき

→ ヨハネ14:15

☆ それは、信じる者のうちに内住される聖霊によってのみ、達成される

→ ローマ人8:3、:10-11

: 3 「神のみこころは、あなたがたが聖くなることです…不品行を避け」 (下線付加) :

- * 広く誤解されている言葉
- * 「聖さへの過程」の意、罪が完全に除かれるということではない
- * 「聖さ」が究極的に達成されるのは、キリストの再臨時

聖めの三段階

1. 隔離による聖め → 過去 (罪の刑罰からの隔離)

☆ 信じる者はキリストとの愛の関係に入れられた

☆ 「義認」

2. 実践的聖め → 現在 (罪の力からの隔離)

☆ 聖霊が信じる者のうちに働かれ、聖さを生み出してくださる

☆ 成長する働き

3. 完全な聖め → 未来 (罪の存在からの隔離)

☆ 未来に起こること、

そのとき、信じる者はキリストに似たものに変えられる

☆ 「栄光化」

: 4 「各自わきまえて、自分のからだを、聖く、また尊く保ち」 (下線付加) :

* 魂の器

: 5 「神を知らない異邦人のように情欲におぼれず」 (下線付加) :

* ここでは、キリスト者ではない者

* 真の神の知識が抑圧されると、人は偶像崇拜へと導かれ、
偶像崇拜は人を不品行へと導き、不品行は人を死へと導く

: 6 「…主はこれらすべてのことについて正しくさばかれるからです…」 (下線付加) :

* パウロ、ヘブル語 (旧約) 聖書で神ヤーウエに対して用いられている表現を、
キリストに適用

: 7 「神が私たちを召されたのは、汚れを行わせるためではなく、清潔を得させるためです」 :

* 真の神の子は、罪を犯し続けることはできない

: 8 「ですから、このことを拒む者は、人を拒むのではなく…神を拒むのです」 :

* 「聖霊の働きを拒む罪」に言及

* 神を拒むに等しく、赦されない

聖書

- : 9 「…あなたがたこそ、互いに愛し合うことを神から教えられた人たちだからです」 :
 ＊初代教会は愛によって特徴づけられた
- : 11 「…落ち着いた生活をすることを志し、自分の仕事に身を入れ…手で働きなさい」 :
 ＊問題の源
 1. 制御できない舌
 2. おせっかい
 3. 怠惰
 ＊世の終わりをあてずっぽうに予測する者は安易に世捨て人的になり、
 地に足のつかない生活に陥りがち →パウロ、そのような安易な考え方に警鐘
 ＊ときの良し悪しにかかわらず要求される、信徒にふさわしい人生は—御言葉の宣教—
 →テモテ第二4:1-5
- : 12 「外の人々に対してもりっぱにふるまうことができ、また乏しいことがないように…」 :
 ＊キリスト者の自活は道徳的義務

(2) 4:13-18

主の再臨、携挙

- ☆信徒/教会にとって、究極的な行く先はこの世の一直線上ではない
 ☆キリストは、天で場所を用意された後、信徒を御許に受け入れるため、地上に戻ってこられる
 ☆キリストはご自分の御国を地上に樹立される前に、信徒に栄光を与えられる

- : 13 「眠った人々のことについて…あなたがたに知らないでいてもらいたくありません…」 :
 ＊異教徒には望みなし ⇔ 信徒には祝福された望み
 ＊キリストの甦りは信徒への、死後の永遠の生命の約束に対する、神の証印
- : 14 「…イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずです」 :
 ＊パウロ、キリストを信じて死んだ兄弟姉妹たちに言及
 ＊キリスト者には、死後甦りの身体で永遠に生きる確証がある
- : 15 「私たちは主の御言葉のとおりに言いますが…」 :
 ＊キリストにあって死んだ人たちは、主の再臨のとき、生きている信徒より先に甦らされる
 ＊これは希望的観測ではなく、主ご自身の教え
- : 16 「主は、号令と御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに…」 (下線付加) :
 ＊「(命令の) 叫び」
 →ヨハネ11:43で、キリストはラザロを名指して叫ばれた!
- : 17 「次に、生き残っている私たちが…雲の中に一挙に引き上げられ、空中で主と会う…」 :
 ＊‘ἀρπάξω (ハパザー) ’、
 抵抗できない力で「つかみとられる」、まさに「力づくで」
 ＊ここでパウロ、主の再臨のとき、自分自身、天に引き上げられる信徒として語っている!
 パウロにとって、再臨と携挙は同時進行

終末論

- ☆「携挙」について異なった見解、信念
1. 艱難期後携挙説 キリストは艱難期の後に来られる
 2. 艱難期前携挙説 キリストは艱難期の前に来られる
 3. 艱難期中携挙説 キリストは艱難期のさ中に来られる

☆「キリストの再臨」はあなたに関りがありますか？

☆再臨時のこの世の状態をキリストはどのように表現されましたか？

→ルカ18:8「…人の子が来たとき、はたして地上に信仰が見られるでしょうか。』」

☆ここで用いられているギリシャ語、この修辞疑問に否定的な答えを要求